



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第4号
(5月20日～6月2日)

令和5年5月19日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

仕上げ摘果はすみやかに！
「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は5月25～26日頃!!
腐らん病は見つけ次第、適切な処置を!!!

I 概要

結実の状況を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に、さびなどの障害がない果実を見極め、すみやかに仕上げ摘果を行う。

「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月25～26日頃に実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。次回の「6月中旬」までの散布間隔があくため、追加散布を実施する。

本年も腐らん病の発生が目立っている。枝腐らんは5～6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、胴腐らんは、再発病斑を含め、適切に処置を行う。

本年は開花が早いので、つる割れの発生が懸念される。例年、発生が多い園地では、満開20～30日後にヒオモン水溶剤を散布する。

II りんご生産情報

1 結実状況、作業の進み、病害虫の動き

(1) 結実状況

総じて結実量は確保されている。

(2) 作業等の進み（5月17日現在）

「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布は、5月13～16日頃にかけて行われた。
王林やつがる等の一つ成り摘果が行われている。

(3) 病害虫の動き

（5月17日現在 りんご研究所）

黒星病	子のう孢子及び分生子の飛散継続中 感染危険度は農なび青森 (https://www.nounavi-aomori.jp) に掲載中 葉の病斑初発（本年：5月3日、平年：5月13日） 殺菌剤無散布の県予察ほでの新梢葉発病葉率（ふじ） （本年：5月16日 1.2%、平年：5月15日 2.4%）
腐らん病	病斑の伸展、孢子の飛散ともに継続中
うどんこ病	分生子の飛散継続中
モニリア病	実腐れ初発（本年：5月12日、平年：5月22日）
ミダレカクモンハマキ	越冬卵からのふ化終了、幼虫が葉を加害中 （ふ化終息 本年：5月7日、平年：5月13日）
リンゴハダニ	幼虫～成虫が葉を加害中
クワコナカイガラムシ	越冬世代幼虫が移動中 （移動初発 本年：5月9日、平年：5月20日）
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化継続中

2 作業の重点

(1) 薬剤散布

ア 「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布

「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月25～26日頃に実施する。地域や天候によっては散布時期が異なるので、気象情報を参考にする。また、黒星病、黒点病などの重点防除時期なので、基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

うどんこ病の発生が多い園地では、コナケシ顆粒水和剤4,000倍も使用する。
ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、有効な薬剤を使用する。

「ふじの落花20日後頃」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	5月25～26日頃	炭酸カルシウム水和剤	4 2 0 0
弘前 三戸		デランフロアブル 1,500倍 又はチウラム剤 500倍 (チオノックフロアブル トレノックスフロアブル) 又はマンゼブ剤 600倍 (ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤)	

イ 追加散布

次回の「6月中旬」までの散布間隔があくため、追加散布を実施する。

なお、農薬の年間使用回数を超えないように十分注意する。デランフロアブルは極早生品種には使用しない。

追加散布「ふじの落花30日後頃」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	6月4～5日頃	炭酸カルシウム水和剤	4 2 0 0
弘前 三戸		デランフロアブル 1,500倍 又はチウラム剤 500倍 (チオノックフロアブル トレノックスフロアブル) 又はマンゼブ剤 600倍 (ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤) 又はアントラコール顆粒水和剤 500倍 又はパスポート顆粒水和剤 1,000倍 又は有機銅剤 (キノンドー顆粒水和剤 1,000倍) (オキシンドー水和剤 1,200倍)	

(2) 腐らん病対策

本年も発生が多く見られている。

枝腐らんは、5～6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、処置が不十分であったり、誤った処置が行われている園地もみられるので、再発病斑を含め、次のいずれかの方法で適切に処置を行う。

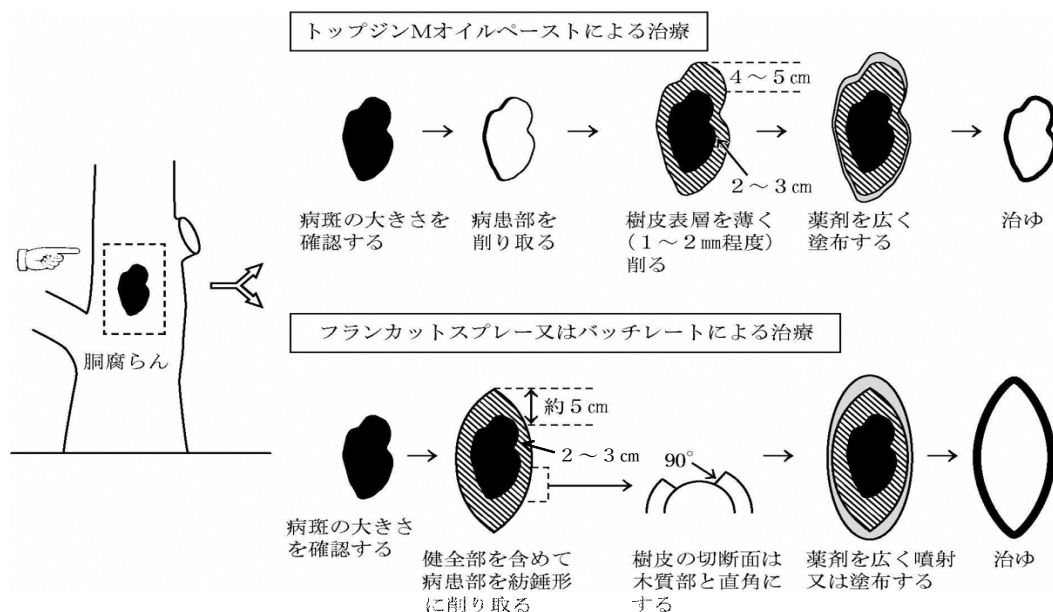
ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6cm広めに、3～5cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチ

レンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのまましておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

(3) 黒星病対策

「ふじの落花20日後頃」までは、降雨に伴い子のう胞子が多く飛散するので、薬剤散布は10日間隔を遵守し、散布むらがないように基準量を丁寧に散布する。散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。

自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(4) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(5) うどんこ病対策

伝染源の密度を下げるため、白い粉に覆われた被害花そう・葉そうは、見つけ次第、枝ごと摘み取り、適切に処分する。

(6) モニリア病対策

葉腐れ、花腐れ、実腐れ、株腐れは、園内を見回り、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(7) 交信攪乱剤の設置

交信攪乱剤コンフューザーRは、すみやかに取り付ける。広い面積で処理するほど効果が高いので、できるだけ地域ぐるみで取り組む。

(8) 摘果

結実の状況を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に、仕上げ摘果を行う。さびなどの障害がない果実を見極め、ふじでは落花25日後頃までに終わるようにする。

原則として果実は2～4年枝上に着生した頂芽に成らせる。葉が多く付いた果そうになった果実で、つる（果柄）が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、逆さ実、果台が長い果実（ふじではおよそ2 cm以上）はできるだけ摘み取る。

霜による被害がごく軽微（果柄の傷など）であれば側果ではなく中心果を残す。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

(9) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

本年は開花が早いので、つる割れの発生が懸念される。例年、発生が多い園地では、ヒオモン水溶剤3,000倍を満開20～30日後に散布することで発生を軽減できる。使用に当たっては次のことに留意する。

ア 単用散布とする。

イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1週間後頃にはほぼ回復する。

ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉

や頂芽の欠落が発生した事例がある。

エ 極端に樹勢の弱い樹への散布はさける。

オ 果実肥大が抑制される場合がある。

カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。

キ 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

(10) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり200程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(11) マメコバチの活動終了後の管理

マメコバチ活動終了後の巣箱は、天敵などが侵入しないように不織布などで被覆する。

(12) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水1000当たり使用量（倍数）	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500 g（67倍）	2,000 g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,000 g（100倍）	1,400 g（71倍）

(13) ビターピット防止対策

例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、幼果期（6月）の少雨、夏期の高温が予想される場合は、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には葉害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) ひこばえ、徒長枝の切り取り

4 今後の作業予定 (6月3日～6月23日)

- (1) 薬剤散布 (2) 摘果 (3) 袋かけ (4) 草刈り
 (5) ひこばえ、徒長枝の切り取り (6) 腐らん病対策
 (7) クワコナカイガラムシ対策 (8) 追肥 (9) ビターピット防止対策

《 りんご黒星病の予想感染危険日 》

りんご黒星病の予想感染危険日をりんご黒星病防除情報等配信サービスでお知らせしているほか、感染危険度を農なび青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。

予想感染危険日は、天気予報から予想した黒星病が感染する危険性が高い日のことです。感染危険日に散布を予定している場合は、気象情報に注意し、降雨前散布を徹底しましょう。

また、感染危険度は過去の気温と湿度のデータから、黒星病の感染の危険性の高さを示しています。

<りんご黒星病防除情報等配信サービス>

配信を希望する方はりんご果樹課のメールアドレス (ringo@pref.aomori.lg.jp)宛てに下記を記載の上、お申し込みください。

メールの件名：配信サービス希望

本文：お住まいの市町村、職業

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 春の農作業安全運動展開中！（４～５月） 》

春の農繁期は、農業機械等による事故が多発する時期となっています。農作業事故を防止するため、県では、「春の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声かけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

【第2回りんご等果樹生産技術研修会のお知らせ】

地域	時期	場所
津軽	6月1日（木） 13:30～15:30	黒石市：（地独）青森県産業技術センター りんご研究所 研修館
県南	6月2日（金） 10:30～12:00	五戸町：（地独）青森県産業技術センター りんご研究所 県南果樹部 研修館

次回の発行は令和5年6月2日（金）の予定です。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5093、5094
017-734-9492直通